

第1号様式

(第1面)

事業活動脱炭素化取組計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 210-8680
 住 所 川崎市川崎区鈴木町1番1号
 氏 名 味の素食品株式会社
 望月 俊之

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素食品株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区鈴木町1番1号		
該当する事業者の要件及 び温室効果ガスの排出を 行う産業、運輸その他の部 門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	産業 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	部門
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	調味料の製造、スープ類、その他食品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	14,419 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2025 年度 ～ 2027 年度
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制	別添 指針様式のとおり
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添 指針様式のとおり
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添 指針様式のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。

1 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量の削減等に向けた方針

私たちは、ステークホルダーとともに地球との共生に貢献し、持続可能な『循環型社会』の目標を設定して実現します。

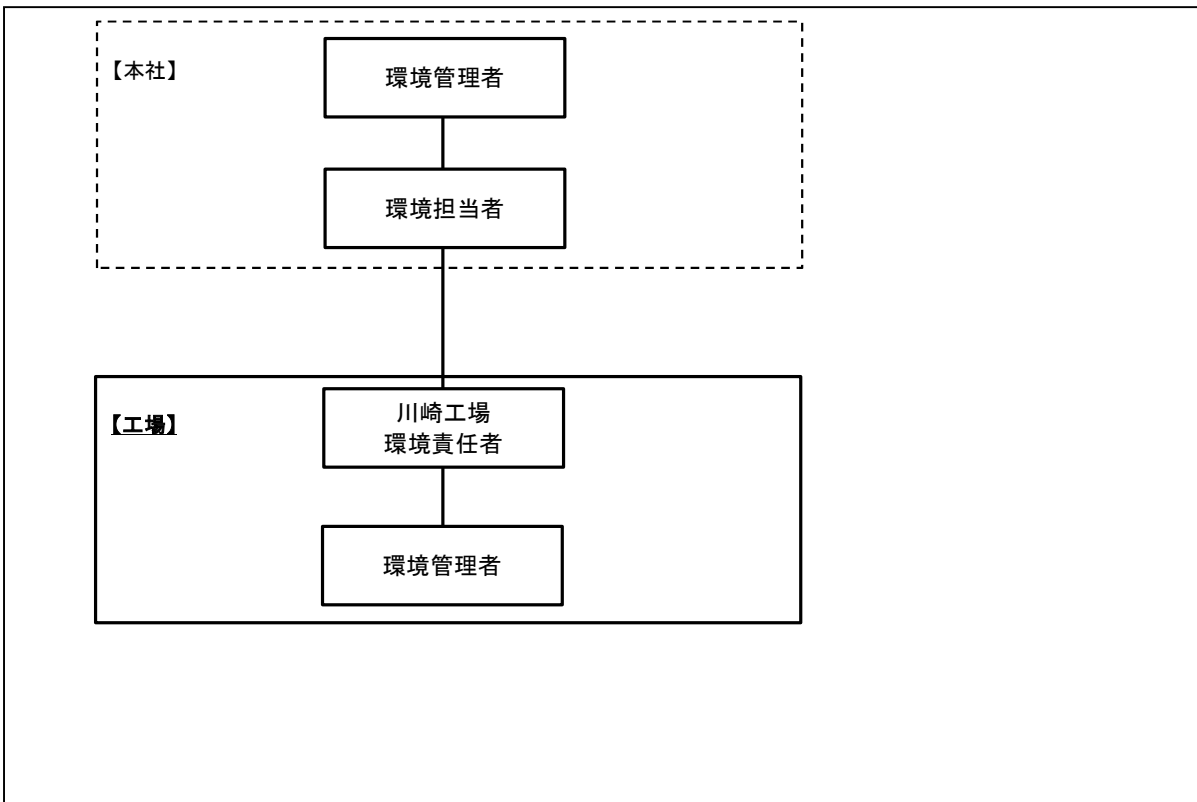
1. 私たちは、自社の事業だけでなく、川上の資源採取から川下の使用と廃棄までを含むバリューチェーン全体とその周辺を環境の取り組みの対象とします。
2. 私たちは、バリューチェーン全体から排出される温室効果ガスを地球が吸収可能な範囲に抑え、気候変動の緩和・適応を促進し、ネットゼロ実現へ貢献します。
3. 私たちは、大気、水および土壌の汚染に関する悪影響の緩和（予防と管理を含む）を推進し、次世代のための食資源の確保と生態系・生物多様性を含む自然環境の保全、水質汚染の防止のための適切な水処理および水質改善を含む水資源の保全および水リスクの低減に貢献します。
4. 私たちは、バリューチェーン全体から排出される廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を適切に行い、非化石由来および再生材料の使用を拡大し、資源を活かす取り組みを進めます。
5. 私たちは、関係法令等を順守します。
6. 私たちは、環境マネジメントシステムの考え方を基本として、環境トラブルの防止を図るとともに、定期的にモニタリングおよびリスクアセスメントを実施し、継続的に環境改善の取り組みを進めます。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- ①味の素グループの排出削減計画に基づき、省エネ及び排出量削減目標の設定を行い、年度計画を策定する。
具体的内容については半期ごとに開催するマネジメントレビューで確認、共有する。
- ②年度計画の実施項目の進捗確認とエネルギー使用量及びCO2排出量の実績管理を行い、予算管理も含めて、運転・設備保全上の課題を整理し年度計画の見直しを行う。
- ③マネジメントレビューで省エネ及びCO2排出量削減効果について確認、評価を行う。
その評価により実績項目の選定、判断を行う。

以上の基本方針によりPDCAサイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制



3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。)

		1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準	年度	2024	年度	2024	年度	2024	年度
目標	年度	2027	年度	2027	年度	2027	年度
基準	排出量 (t-CO ₂)	(基) 27,105 (調) 27,105		(基) (調)		(基) (調)	
目標	排出量 (t-CO ₂)	(基) 26,398 (調) 26,398		(基) (調)		(基) (調)	
削減	量 (t-CO ₂)	(基) 707 (調) 707		(基) (調)		(基) (調)	
削減	率	(基) 2.6 % (調) 2.6 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第2年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第3年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
比較年度	2018	年度	2013	年度	2013	年度
比較年度排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	48,973 49,369	(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	26,398 26,398	(基) (調)		(基) (調)	
削減率(目標)	(基) (調)	46.1 % 46.5 %	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第1年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第2年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第3年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%

(3) 目標設定に関する説明

・目標排出量 = (基準年度2024年度実績排出量) × (1 - 削減率) = 27,214 × (1 - 0.03) = 26,398
 【考え方】 前回提出した計画書と同様に温室効果ガスの排出量削減を図るため、排出量を年1%以上削減することを前提に2024年度を基準に3年間で3%の削減を目指す。

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年11月20日 ISO14001 2015年度版取得 (川崎工場) ○主要設備の保全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・設備管理については、保全計画を基に法定点検、定期点検、日常点検を継続実施している。 ○空調機の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・事務所棟の温度設定を細目に調整し、省エネ活動の継続。 ○照明設備の管理運用 <ul style="list-style-type: none"> ・照明設備は環境測定 (2回/年) による照度チェックと、不要時の消灯および人感センサーによる消灯を実施している。 また、照明のLED化を実施。 ○省エネ設備への更新や改善 <ul style="list-style-type: none"> ・中期設備投資計画にて省エネ設備への更新や改善を計画的に実行。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値(1、2号該当者)

原単位等の活動量	生産量		原単位等の単位			kl/ton
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
エネルギー消費原単位の値	0.1880					0.1824
活動量の値	107300					107,300
エネルギー消費原単位の削減率		%	%	%		3.0 %

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(4号該当者)

原単位等の活動量			原単位等の単位			
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
排出量原単位の値						
活動量の値						
排出量原単位の削減率		%	%	%		%

(3) 目標設定に関する説明

<p>・目標排出原単位 = (基準年度2024年度実績排出原単位) × (1 - 削減率) = 0.2536 × (1 - 0.03) = 0.246</p> <p>【考え方】 前回提出した計画書と同様に温室効果ガスの排出量削減を図るため、活動量(生産量)は横ばいを前提に排出原単位を年1%以上削減することを前提に2024年度を基準に3年間で3%の削減を目指す。</p>

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移(1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	14,419 kL	kL	kL	kL
エネルギー起源CO ₂ 排出量	27,105 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
事業所の数	1			

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量<<クレジット考慮>>(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎工場	川崎市川崎区鈴木町1-1	27,105			

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年11月20日ISO14001 2015年度版取得(川崎工場) ○主要設備の保全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・設備管理については、保全計画を基に法定点検、定期点検、日常点検を継続実施している。 ○空調機の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・事務所棟の温度設定を細目に調整し、省エネ活動の継続。 ○照明設備の管理運用 <ul style="list-style-type: none"> ・照明設備は環境測定(2回/年)による照度チェックと、不要時の消灯および人感センサーによる消灯を実施している。 また、照明のLED化を実施。 ○省エネ設備への更新や改善 <ul style="list-style-type: none"> ・中期設備投資計画にて省エネ設備への更新や改善を計画的に実行。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価(第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など(第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項 (1、2号該当者)

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入 (基準年度)

種 類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入 (保有) 年度
太 陽 光				2031年度導入検討
風 力				導入検討計画なし
バ イ オ マ ス (燃料 :)				導入検討計画なし
そ の 他 ()				
そ の 他 ()				
合 計				

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電力エネルギー 消費量	40,119,300 kWh	kWh	kWh	kWh	40,119,300 kWh
再エネ電源等	0 kWh	kWh	kWh	kWh	0 kWh
再エネ電源比率	0.0 %	%	%	%	0.0 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
排 出 係 数 (kg-CO ₂ /kWh)					0.342

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電 化 の 割 合	25.8 %	%	%	%	25.8 %

(4) 目標設定に関する説明

<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー源等を利用した設備導入は、計画年度(2025~2027年度)中には検討予定がないため目標年度の数値は現時点無記入とした。 上記により、使用エネルギーの電化の割合は基準年度(2024年度)と同等とした。
--

(5) 計画期間の再生可能エネルギー源等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

<p>計画</p>	<p>・再生可能エネルギー源等を利用した設備導入は、計画年度(2025～2027年度)中には検討予定がない。 中長期計画として、早くても2031年度に太陽光発電設備の導入検討を今後進める予定。</p>	
<p>第1年度</p>		
<p>第2年度</p>		
<p>第3年度</p>		
<p>計画期間における再生可能エネルギー源等の導入等の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>		
<p>上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)</p>		

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	2050年までの脱炭素化表明有・計画有			
内容	中長期計画として、早くても2031年度に太陽光発電設備の導入検討を今後進める予定。			
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	2050年度	年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	2030年度	年度	年度	年度
	50%削減 (2018)年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取組実績なし			
内容				

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	有			
内容	・基準年度(2014年度)に対し、1%/年削減、計画年度3ヶ年で3%削減を目標としている。			

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	導入なし			
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	認定済み			
RE100	加盟済み			
RE Action	該当なし			
TCFD	賛同済み			

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	定性的な記載有			
内容	私たちは、バリューチェーン全体から排出される廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を適切に行い、非化石由来および再生材料の使用を拡大し、資源を活かしきる取り組みを進めます。			

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし			
認証年度				

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得なし			
認証年度				

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）

（各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

<p>目標年度までの計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入推進。 2. トラブル防止による廃棄物減量化推進。 3. 廃棄物のメタンガス化に処分依頼。 4. 服装軽装化（スーパークールビズ）
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	